



# しながわ

第44号

## 新年 おめでとございます

発行者：品川区保護司会

編集：保護司会広報部

### ■表紙写真

居木神社末社巖島神社

(品川区文化財建造物第3号)

かつて居木神社の傍にあった旧居木橋村の名主・松原家に屋敷神として祀られた社で、後に神社が引き取り、末社巖島神社として祀るようになった。小型の社殿ですが、向拝柱の登り龍・下り龍をはじめ、質の良い彫刻装飾が多用され江戸時代の社殿で区内でも他に類例がない貴重なものです。円内は同神社所蔵の一刀彫神輿です。(撮影 太田 明)



### 年頭のご挨拶

品川区保護司会 会長 木崎 新一郎

新年おめでとうございます。この言葉でご挨拶することが憚れる様な昨年一年でした。当保護区の活動もコロナ禍の猛威に自粛を余儀なくされ、総会や研修会、さらに「社会を明るくする運動」の街頭広報活動も中止せざるを得ませんでした。だからと言って何もしなかった訳ではありません。この状況下で初めての総会書面決議を皆様の協力を得て手探りで行ったことは大変有意義で保護区の歴史に残ることと思います。また、地域活動部が社明の一環として区内の中学生向けに薬物乱用防止に関するパンフレットを作成し、品川区教育委員会後援のもと全中学校へ配布出来たことをご報告いたします。加えて一昨年の7月から始まったサポ-

トセンター(以下サポセン)での企画調整保護司さん達の努力により、観察所からのコロナ禍での対象者の処遇についての情報をFAX等で全会員へ即時に通知出来たこと。また、サポセンを利用した少人数の各部会や分区の例会、まだ少数ですが対象者の面接に使用、さらに昨年10月には古川観察所所長にわざわざ来訪頂き正副会長との懇談をするなど、今迄の保護区の歴史から思い起こすと会務活動にとって大変な効力があつたと感じています。特に今後のサポセンの利用方法については色々なことが考えられますが、会員の皆様から会務に関することも含めてご提案を賜りたく心からお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶

東京保護観察所 所長 古川 芳昭

皆様には健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年はコロナ禍において、更生保護の機能維持に取り組んでいただきましたことに心から感謝申し上げます。令和3年も更生保護行政の推進のため、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年10月5日に貴サポートセンターを訪問させていただき、木崎会長はじめ保護司会の皆様方と意見交換をさせていただいた際には、お忙しいところご対応いただきまして誠にありがとうございました。サポートセンターに着いてまず、大変立派な施設に心底驚きました。皆様の活動はこの施設を起点に力強く発信されていること

を肌で感じることができました。意見交換の場では、コロナ禍で奮闘されておられる様子などをつぶさに教えていただき、本当に頭が下がる思いで一杯になりました。

本年は、昨年ため込んだエネルギーを最大限に活用して大きく飛躍する年であると思っておりますが、品川区においては、皆様方の溢れんばかりの活動意欲と充実したサポートセンターの環境がそれを可能にしてくれるものと信じております。薬物事犯者の増加に対する適切な対応や無職対象者対策、そして保護司適任者の安定的確保等、引き続き取組を強化すべき課題がいくつもありますので、なお一層のお力添えを賜りますよう改めてお願い申し上げます。



## 年頭にあたって

品川区長 濱野 健

あけましておめでとうございます。品川区保護司会の皆様には、健やかな新年を迎えられましたことと心よりお慶び申し上げます。

犯罪や非行をした人たちの立ち直りと犯罪や非行を防止する更生保護活動に加え、地域防犯活動や青少年健全育成活動等、皆様方の熱意を持った献身的な活動に厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルスは外出自粛要請や緊急事態宣言、新しい生活様式の推奨など、感染拡大防止のため日常生活が激変し、生活及び経済に甚大な影響を及ぼしています。区では、区民の負担を軽減し、区全体の活力を取り戻すため区民一人あたり3万円の給付を行う「しながわ活力応援給付金」、中小事業者等への販路拡大助成・家賃助成、医療等提供

体制確保のためPCR検査センターの設置など各分野で全力をあげて新型コロナウイルス対策に取り組んでおります。

このような激動する社会情勢において、犯罪や非行をした人たちが地域で孤立することなく、一人ひとりの立ち直りに息長く寄り添い、人が人を支える地域社会づくりに取り組まれている保護司会の皆様と、手を携えながら「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」の実現に向け力を尽くしてまいりますので、引き続き区政へのご理解とご協力をお願いいたします。

結びにあたり、品川区保護司会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。



## 新年 ごあいさつ

東京保護観察所 保護観察官 松永 和之

あけましておめでとうございます。  
品川区保護司会の皆様方におかれましては、ご家族お揃いで健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

令和元年11月に中途採用で保護観察官を拝命して以来、保護司の皆様や関係機関の皆様方に支えられ、この良き日を

迎えることができました。心から厚く御礼申し上げます。保護観察は良好解除で終わるだけではなく、地域の安全・安心にどれだけ貢献できたかが重要であり、課せられた使命であると感じております。

結びにあたり、貴会の益々のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしまして、新年のあいさつとさせていただきます。



## 社会総掛かりで

品川区教育委員会 教育長 中島 豊

コロナ禍やSNSによるトラブルで、いじめ・差別に発展したり、犯罪に巻き込まれたりする事態が増加することを大変憂っています。こうした現状を背景に、区では独自の教科として「市民科」を創設しており、そこでは現代の青少年の課題である規範意識や道徳性、社会的マナー等の低下を解決し、社会の一員としての役割を果たせる児童・生徒の育成を目指しております。

そのためには、学校教育は勿論のこと、家庭教育、教育行政、そして更生保護行政の重要な役割を担っている品川区保護司会の皆様とともに、社会総掛かりで力を合わせ取り組むことが重要です。

青少年の健全育成、更生保護、そして誰もが安全・安心に暮らすことができる街づくりに向けて、本年も共に邁進していきたいと考えております。



## 明るい地域社会づくり

品川区地域振興部長 久保田 善行

明けましておめでとうございます。  
品川区保護司会の皆様には、再犯防止、地域のつながりの回復、少年非行防止・健全育成、子育て支援等を通じて、安全・安心な地域社会づくりに多大なご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

コロナ禍という困難な状況においても、更生保護サポートセンターを拠点とし、地

域における更生保護の中心的な役割を担い熱心に活動されております皆様のご活躍は、地域にとりましても大変頼もしい存在であり、区も保護司会の皆様とともに明るい地域社会づくりを推進してまいります。

最後に、品川区保護司会の益々のご発展と皆様のご健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 保護司会のみなさまとともに

品川区社会福祉協議会 会長 池田 彰孝

あけましておめでとうございます。

昨年は世界中を覆ったコロナ禍により、社会経済状況が大きく変動しました。貴会の活動にも大きな影響があったことと推察いたします。しかしながら、こうしたときにこそ、支援を必要としている人たちへのサポートがより強く求められ、貴会の活動の重要さが増すものと思います。

こうした状況のなか、品川区の地域福祉を担う当協議会も様々な支援を行っており、品川区保護司会のみなさまとともに、この難局を乗り越え、令和3年を実り多い年にしてまいりたいと考えております。貴会の発展とみなさまのご健勝をご祈念申し上げご挨拶いたします。



## 新しい年に向けて

品川区民生委員協議会 会長 岡村 佐智子

あけましておめでとうございます。

品川区保護司会の皆様、健やかな新年をお迎えの事と存じます。

昨年は新型コロナウイルス感染拡大により経験した事の無い社会情勢の中、再犯防止等に温かいご指導を感謝致しております。

私達民生委員もこの状況下、イベントの中止など活動に支障をきたし、歯がゆさを

感じております。高齢化、児童虐待と問題が急増し、地域の繋がり的重要性を痛感しております。

保護司の皆様のお力をお借りして「明るく住みよい町・品川」にして行けるよう活動して参りたいと思います。

本年も皆様のご活躍とご健勝を祈念致し、新年のご挨拶とさせていただきます。



## 年頭のご挨拶

警視庁荏原警察署少年係長 片山 紀章

あけましておめでとうございます。

品川区保護司会の皆様には、日頃から警察活動全般にわたり、ご理解とご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

現代の子どもたちは幼少期からスマートフォンやSNSが身近にある環境で育ち、人間関係の構築が苦手とも言われています。新型コロナウイルス感染禍で人と人

とのつながりが希薄になる中、尊い命と家族の大切さを伝え、社会復帰を支えていく皆様の活動は、これにも増して重要な存在になっていくものと思います。

私達も皆様のお力を借りながら、青少年の健全育成と立ち直り支援に向けて精一杯取り組んでいく所存です。

本年もどうぞよろしくお願い致します。



## 新年のごあいさつ

品川区更生保護女性会 会長 松澤 麗子

令和3年の年頭に当たり、皆様お健やかに新年をお迎えの事と存じます。

平素は更生保護女性会の活動に、ご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。昨年はコロナ禍で始まり、何の活動も出来ないまま一年が過ぎてしまいました。この機会に更生保護女性会の歩みを振り返ってみたいと思います。

昭和33年9月に更生保護婦人会として発足、平成30年度には創立60周年記念事業を行いました。私たちは更生保護事業に進んで協力し、犯罪や非行をなくし、過ちを犯した人たちの立ち直りを支援するために立ち上がったボランティア団体です。

今年も犯罪をしない、させないための明るい社会づくりのお手伝いをしてまいります。



## 品川区BBS会のご報告

品川区BBS会 会長 佐々木瑠莉子

あけましておめでとうございます。未曾有の災禍で、皆さまにおかれましては大変なご苦勞をされていることと案じております。

私たちも活動が制限され、心苦しい日々を過ごしております。しかし、マイナスな面ばかりに目を向けずに、新しい方法を取

り入れながら再度活動できる日に向けて尽力してまいりますので、今後ともご支援ご協力の程、よろしく願いいたします。

何かと不便の多い今日ですが、一日でも早く平穏な日々が戻るよう、新型コロナウイルスの終息と皆様のご健康をお祈り申し上げます。



## 新春のごあいさつ

東京桐友会品川支部長 吉田 英一

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、私は昨年4月の定例総会において、理事に選任され、理事の互選で支部長就任が決定しました。

前任の布川定支部長同様お引き立て下さいますようよろしくお願い申し上げます。

桐友会は退任保護司で組織され、その経験を生かし本区の更生保護普及発展の活動を側面から応援する東京都の保護司OB団体であります。

我々は本区保護司会をはじめ様々な関係機関と協働し、犯罪や非行の無い地域づく

りを目指して参ります。

私が会長在任中に「社会を明るくする運動」で受賞者に選定した永井花奈さんが、あれからゴルフのプロテストに一番で合格し、現在資本金1847億円、売上高5兆3000億円のデンソー所属となり、賞金シード選手として一流プロの仲間に入り活躍中です。

いまはコロナの影響で無観客試合ですが、会場で応援する日を待ちわびています。永井プロの詳細はネットでご覧下さい。引き続き永井プロの応援をお願い致します。



## 品川分区活動報告

—コロナ禍プラスとマイナス—

品川分区

品川分区長 前田 純一

品川分区は、今年度保科先生がご勇退、新任に井上保護司が加わりました。新型コロナウイルスの感染で当たり前の日常が奪われ、様々な活動が中止となる中、組織の運営で何が出来るか？ その一つの答えが品川分区のホームページの開設でした。ホームページの目的は、情報の発信と共有化です。情報の発信は、「知らない」事による否定的認識を「知る」事によって「関心」へと繋げ、多くの方が更生保護活動や保護司の存在に関心を持ってもらう事を目的とし、地域の関心が再犯防止の原点であると考えました。また、人と人との交流が減り、会員の気持ちがバラバラになってしまわないためにも情報を共有化し会員の心の拠り所を作るた

めでもありました。コロナ禍は、決して負の面だけではありません。私たちに新たな価値観と認識の発見をもたらしました。Web会議やSNSの導入は、もしかしたら組織運営の新たなスタイルの可能性を秘めており、関わり方の変化は、保護司の人材発掘の新たな光となるかも知れません。しかし、デジタル化の進む現在、忘れてはいけないのは、私たちの更生保護活動は、人と人が直接向き合い、相手の気持ちに寄り添う事無しには無し得ないという事を。



品川分区ホームページQRコード



## コロナ禍に思う

大崎分区

大崎分区長 山口 直英

昨年9月下旬本区より令和2年度第Ⅱ期定例研修について中止のお知らせが届きました。年間予定が記入された手帳の行事や会議の日程に横線を引いたり、中止や延期と書く事が当たり前となった感があります。

令和元年12月中国の湖北省武漢市付近で感染が初めて確認され、その後世界中を震撼させた新型コロナウイルス感染症は、昨年12月21日現在、米国約1,800万人、インド約1,000万人、ブラジル約700万人の感染者を数え、世界では約7,700万人以上となりました。日本では令和2年1月16日に国内初の感染者が確認され、2月初めにはダイヤモンドプリンセス号の船上隔離が開始される事態となりました。4月には7都府県に緊急事態宣言が出される

程の深刻な状況となり、宣言解除後も全国では感染者が増加し20万人を超えています。東京都は5万人以上となり、我が品川区は1,700人を超えています。

未だ終息の兆しが見えないコロナ禍にあって国内では自粛生活を余儀なくされ、それに伴って様々な活動が中止されています。品川区保護司会の活動も自粛となり保護司の一番大切な対象者との面接も儘ならぬ現状です。また、これからはインフルエンザが心配な季節を迎えます。しかし怖がるだけでなくウィズコロナを意識して、手洗いの励行・手指の消毒・マスクの着用、そして換気にも気を使い上手にコロナと共に生活し、活動を再開しなければと思います。

もちろん三密は避けて!!!



## 大井分区の危機

大井分区

大井分区長 千代田 義法

昨年7月9日早朝、当分区相談役の小越是誠氏の訃報をお電話にて奥様から拝受いたしました。3年前に大病の為、分区長を若輩者の小生に託されたあとは肩の荷が下りたのか治療並びにご家族の献身的なご看病の甲斐もあり、また仏天のご加護、ご本人の生命力もおありになったのか、めきめきとお元気になられておりましたので、唯々残念な気持ちでいっぱいとなりました。衷心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、生前のご指導に心より感謝申し上げます。

大井分区保護司会員数は近年減少傾向にもかかわらず、来年は定年退任が重なり一気に半減します。少なくとも同数、もしくはそれ以上の新任保護司が確保できなければ、大井分区活動、更には品川区保護司会での更生保護活動が大変危うい状況となります。経験豊富な小越様の御逝去もあり、「大井分区の危機」であります。

年々、個人商店が少なくなり、勤める共働き家庭が増え、いつから老後で安心してのんびりした生活ができるのか分からない時代になってきていると考えます。更に追い打ちをかける新型コロナウイルス禍、そのような世情の中、保護司法第3条「職務の遂行に必要な時間的余裕を有すること、生活が安定していること」などが私自身は具備しているのか改めて自問自答している日々です。未熟者ながら、法務省として大改革が必要なのではないかと存じ上げます。



自主研修 10月13日(火)



## 荏原東分区活動報告

荏原東分区

荏原東分区長 太田 明

昨年は新型コロナウイルス感染防止ということでほとんどの活動が中止になってしまいました。今までにない経験でした。こうした状況の中で荏原東分区は、感染防止に努めながら、書面総会決議・役員会4回・定例会1回・ひがし会(自主研修)2回・施設参観2回を実施しました。3月には分区の情報誌32号を発行しました。2月6・7日に静岡刑務所参観を行いました。看板工場の印刷、木工工場を案内していただきましたが受刑者の高齢化の為、畳の上での作業があるのを知りました。10月13日には八王子市にある紫翠苑を見学しました。施設長に施設を時間をかけて案内していただき、また施設の設置経緯や日常の業務内容をプロジェクターを使ったご講義から、更生施設の実態を把握することが出来、大変有意義な研修となりました。7月20日には地域活動課・生活安全課長 黛和範氏、10月26日には荏原

警察署生活安全課長 阿部靖氏を講師にお迎えて講演を行っていただき、保護司活動の広がりの上で良き研修が出来ました。

コロナ禍で、如何に安全を保てるか熟慮を重ね前向きに実施したことは、何も問題が起こらなかったから良かったのですが、勇気ある行動であったかもしれません。今後、日常の活動も流れに即した展開が求められ、変化に対応していかなければなりません。英知をもって乗り越えましょう。



◀静岡刑務所参観  
2月6日(木)



紫翠苑見学▶  
10月13日(火)



## 荏原西分区活動報告

荏原西分区

荏原西分区長 芳根 孝明

昨年に引き続き当分区は、特筆すべきハプニングも無く穏やかな1年を過ごすことができました。と、書き始めることを毎年この活動報告のパターンにしていたのですが、今号はそうは問屋が卸しませんでした。新型コロナ COVID-19への対応に社会全体が手探りで試行錯誤を続ける中、当分区も活動の自粛を基本に何ができるのかを探って参りましたが、ほとんど何もできなかったというのが正直なところです。唯一、11月には警視庁被害者支援室並びに荏原警察署のご協力の下、犯罪被害者支援の実態そして薬物犯罪の状況に関する自主研修を行うことが出来ました。まだ先は見えませんが、2021年は、昨年叶わなかった高松刑務

所への施設参観研修をはじめ2年分のエネルギーを発していきたいと考えております。また、例年通り新人の発掘、分区通信の継続、関係諸団体とのより活発で良好な関係構築等を目指し、分区の更なる活性化を図っていきたいと考えております。本年もどうぞよろしく願いいたします。



荏原文化センター 11月10日(火)



## 更生保護サポートセンター活動状況

品川区更生保護サポートセンター  
企画調整保護司 井上 耕一

### 1. サポートセンター運営概要及び稼働状況

令和元年7月17日の開所以来、事務局及び企画調整保護司16名で運営しています。

企画調整保護司は、当番制により10時から16時まで活動をしています。使用状況は、対象者面談3件、自主研修16件、保護司の相談28件、処遇会議3件、関係機関との会議3件、本区部会、分区会議等に利用されています。

コロナ禍においては、リモート対応により、保護司等中央研修会、第三ブロック協議会の協議が行われました。

### 2. 企画調整保護司の活動状況

「社会を明るくする運動」啓発活動パンフレット、「明日に向かって」配布手伝い。

### 3. 運営上の課題

- ・使用日時等の範囲拡大について
- ・企画調整保護司の増員について







## 研修部活動報告

品川区保護司会 研修部長 谷川 寛

令和元年度の研修は令和2年2月3日に「就労支援について」のテーマにより、第Ⅲ期地域別定例研修を行いました。就労支援は、対象者が経済的に自立して安定した生活を送り、規則正しい生活習慣を身につけ、安心して社会生活を行い、二度と犯罪を行わないようにするためにも大変重要な要素です。保護観察終了者のうち無職者の再犯率は有職者の約3倍で、刑務所再入所者の約7割が再犯時には無職です。

就労の確保は再犯防止の最重要課題といえる一方、保護観察対象者は自力で就職することに加え、就職しても定着することが困難となっている人が少なくありません。

保護観察対象者等に対して実施されている就労支援の主たる制度を理解し、支援が必要なケースにその制度を適切に活用することで保

護観察対象者の就労の推進につなげることを狙いとした講義でした。

但し、就労支援を受けるにあたり、東京都就労支援事業所に対して犯罪等の前歴その他の個人情報を開示することへの同意が必要です。このことによって、就労に影響を及ぼすことがないようにして欲しいものです。

今年度の施設研修は東京保護観察所からの指示もあり、中止にいたします。今後の研修の予定ですが、第Ⅲ期地域別定例研修を令和3年2月18日(木)第2回自主研修を令和3年3月18日(木)いずれも2部に分けて行います。今後の感染状況により、開催できるかどうか、また、開催できるにしても開催場所が変更になる可能性がありますので、今後の情報に注意をお願いいたします。



## 地域活動部報告

品川区保護司会 地域活動部長 松尾 和英

令和2年4月7日に新型コロナウイルス感染拡大防止による緊急事態宣言が発令され、皆様にとりましては大変な事態となっておりますが、如何お過ごしでしょうか。

品川区保護司会地域活動部では皆様のお力をお借りして『地域貢献活動展』並びに『社会を明るくする運動』を中心とした活動を展開していましたが、この度の新型コロナウイルスの影響を受け、保護観察所並びに所管の品川区のご指示によりほとんどの会合が中止となってしまいました。

地域貢献活動展は2月中旬に中止決定となり、その他の活動中止もささやかれてまいりました。しかしながら『社会を明るくする運動』青少年善行・特別表彰については子どもたちのための表彰であるために是非実行し

たいと考え、品川区地域活動課庶務係の皆様と協議を重ねて実行することとなりました。

通常では審査会を開き表彰者及びグループを選出し、7月に行われる『区民愛のつどい』の会場にて表彰状を贈呈する予定でしたが、それもかなわず、今年度は各学校に配布して校長先生よりお渡ししていただきました。それでも、子どもたちは大変喜んだとのご報告を受け私もほっとしたところでありました。また、9月に行われる予定でした第30回『しながわ宿場まつり』の広報宣伝活動も中止となり、不完全燃焼のまま次年度に向けての計画を立ててまいりたいと思います。





令和2年度

## 第3ブロック保護司組織運営連絡協議会報告

品川区更生保護サポートセンター事務局担当 石坂 啓

令和2年度の第3ブロック保護司組織運営連絡協議会が、令和2年10月30日に実施されました。

今回は、新型コロナウイルス感染防止対策から第3ブロックに所属する大田区保護司会、世田谷区保護司会、渋谷区保護司会、目黒区保護司会（当番区）、品川区保護司会が各区会場に分かれ“zoom”によるリモート会議となりました。

日	時：令和2年10月30日（金）午後1時40分～午後3時15分
場	所：各地区保護司会の指定する場所 ※品川区更生保護サポートセンター
協	議 題：「開かれた」保護司組織について
協	議事項：1. 組織運営のあり方について 2. 保護司の育成について 3. 地域の関係機関・団体との組織的連携について

協議方法は、各協議事項を各区保護司会が提言発表し、それについて各区保護司会より意見を述べ合うという形式で行われました。

具体的には、

- (1) 組織運営の在り方、とりわけ適任人材の登用、専門部と分区活動との関係について（大田区保護司会）
- (2) 組織運営の在り方、とりわけサポートセンターの有効活用について（世田谷区保護司会）
- (3) 保護司の育成について（渋谷区保護司会）
- (4) 地域の関係機関・団体との組織的連携について（品川区保護司会）

を各区保護司会が発表し、それを受けて意見交換を行うというものでした。

テーマの数が、4テーマとなったため、目黒区保護司会からの発表はありませんでした。

提言発表の持ち時間が3分と限られた時間となったために、品川区保護司会の発表はコンパクトに纏め上げるためにパワーポイントを活用して行いましたが、石津保護司の発表が大変分かりやすく、良い発表となりました。

反響としては、薬物乱用防止パンフレットの要望が多く、各保護司会へ合計700部送付した点が挙げられます。

次年度は、従来実施されてきたように同一会場で開催できるよう、新型コロナウイルス感染症終息を期待し、報告といたします。関係者の皆様、お疲れ様でした。



## 薬物乱用防止パンフレット作成について

品川区更生保護サポートセンター 事務局担当 石坂 啓

令和2年は、一昨年11月に中華人民共和国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症が、全世界に感染拡大し、生活様式や勤務形態等様々な活動に影響を及ぼした年となりました。

日本での新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、2月下旬より実施された学校の閉鎖により、春休みを多少早める程度と当初一か月程度のものでしたが、学習期間を残した中で、家庭での学習課題が与えられ、児童や生徒は学習に身の入らない期間を過ごすこととなりました。

その後、3月の春分の日の連休後に感染拡大傾向がみられると、4月7日には緊急事態宣言が発せられ、会社も在宅勤務となり、仕事も学校もリモート対応となるなど、人と人とのコミュニケーションが以前のように取れない状況となりました。

マスメディアでは、こうした状況を踏まえ、家庭でできる運動やマスク不足に対応するためのマスク作成を紹介する一方、児童や生徒、学生の精神的に不安定な状況を克服するための特集などが組まれる等、緊急事態宣言下における過ごし方がクローズアップされるようになりました。

そうした一方で、浅草の三社まつりが中止になる等多くのイベントが中止となり、当然のように保護司会活動にも多くの制約が出る等、保護司会の啓発活動ができなくなる状況となりました。

このような状況を憂慮した品川区保護司会の木崎会長は、心と身体のバランスが崩れやすい中学生、高校生を対象とし

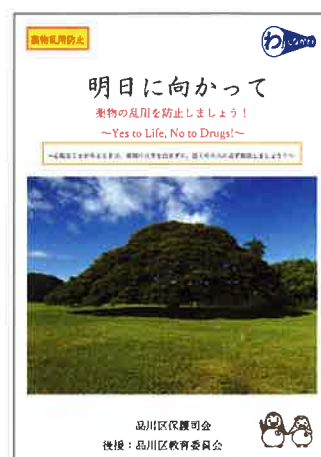
た啓発物の作成が必要という思いが日増しに高まる中で、杉並区保護司会より発行された刊行物を目にし、薬物乱用防止のパンフレットを品川区でも発行したいという強い思いにより「明日に向かって」という薬物乱用防止パンフレットを作成するに至りました。

例年7月に行われる「社会を明るくする運動」の啓発活動の時期に間に合わせて発行するという意図があり、作成期間が短いことから杉並区保護司会のパンフレットを参考にして作成致しました。

並行して、配布対象を品川区にある中学校、高等学校としたいという願いから、木崎会長と松尾地活部長が品川区教育委員会へ原稿を持ち込み、品川区保護司会の趣旨に賛同いただくことで、品川区教育委員会の後援をいただき、区内中学校への配布に理解を得ることができました。

結果的には、品川区内の区立中学校全てに配布ができ、高等学校については八潮高等学校へ配布することができました。

パンフレットの内容には改善する所が多くあるとは思いますが、子ども達が明るい未来に邁進するための一助になれば幸いです。





## サポートセンター処遇会議報告

大崎分区 企画調整保護司 古谷 洋子

一昨年7月に開所したサポートセンターでは、適宜、処遇会議を開いています。  
今回、第3回処遇会議(令和2年2月28日14時～14時45分)で学んだ内容をご紹介します。

第3回 処遇会議

テーマ 「SST 技法を学ぶ」

参加者: 木崎会長、桐友会 森 良子先生、他保護司 6 名

SSTとは social skills training(社会生活技能訓練)の略で、対象者が対人行動能力を伸ばせるように、保護司が面接の中で基本的な対人行動スキルを習得させる技法です。今回は「生きる力をつける支援のために」(SST 普及協会 前田ケイ著 日本更生保護協会発行)というテキストに付随した DVD で、SST の実践場면을ロールプレイとして映像化したものを視聴しました。

以下、DVD で学んだ技法を紹介します。

### ①コインマップ

面接開始時期、対象者の人間関係において具体的な問題に向き合い、新しい行動をとるように動機付ける方法として用いられる。

いくつかの種類のコインを用意し、自分にあたるコインをひとつ対象者を選んで真ん中に置いてもらう。次に本人を取り巻く人々にあたるコインをひとつずつ選んで自分のコインの周りに置いてマップを作る。その時、選んだコインの種類で対象者の人間関係を観察する。それをもとに、今、本人の抱えている問題を整理し視覚的に捉えることで、本人の取り組むべき目標が見え、実行を促す事ができる。

### ②行動改善のための基本訓練モデル

実際の就職面接や接客などの経験が少ない対象者のために、社会生活をする上で直面する場に備えるため模擬場面を作って対象者とロールプレイをする。必要なら手本を見せたり(言葉遣いや話し方)、良く出来たところを褒め、改善点を伝え再度練習し(正のフィードバック)良くなったところを伝え、実生活で実行に移すよう促す。

### ③認知機能の改善 問題解決法

対象者が直面している問題について、解決へと導く方法。

例えば「アルコール依存症から立ち直ろうとしている対象者が、事情を知らない勤務先の同僚から受けた酒の誘いを断る方法」という課題について、まず問題をはっきりさせ、思いつく限りの解決法を対象者と一緒書き出し、一つひとつの長所と短所を考え、一番実行しやすい解決策を本人が選び、それをもとにロールプレイをし、改善点を伝える。

### ④怒りのコントロール

対象者が、人間関係が上手くいかず相手に怒りを覚えた時、そのような場面でどう考え行動するのが良いのかを一緒に考え、実行に移すよう導く方法。怒った時の自分の気持ちを冷静に確かめ、その上で、自分の怒りのパターン・不適切な対処法(相手を攻撃する、脅す、八つ当たりするなど)をあげ、感情的になる自分にストップをかける対処の仕方(別の考え方を採り、感情を置き換えるなど)と、適切な行動と一緒に考え、本人が答えを見つけるよう導く。その後、その場면을ロールプレイ(怒りを覚えた時、新しい考え方を声に出して言うなど)する。

DVD 視聴後、参加者からは、「実際に対象者との面接の中でロールプレイをするというのはなかなか難しいのでは」「まずそこまでの信頼関係を作るのがたいへんだ」という感想がありました。実際、こういう技法は医学や心理学の専門分野にも及び、私達が日頃行う面接で実践するのは容易なことではないと思います。ただ、「コインマップ」は比較的取り組みやすい印象であり、「怒りのコントロール」は自分自身にも当てはまることがあるのでさらに学んでみたい、という感想も聞かれました。

今回は短い時間での初歩的な学びであり、詳細な考察には至りませんでした。サポートセンターにこのテキストと DVD がありますのでご興味のある方は企画調整保護司までお尋ね下さい。

当日 DVD 視聴後は、桐友会の森 良子先生から、ご自身の活動の経験談もお話いただきました。処遇会議はこれからも保護司として知っておきたい学びの場、処遇の経験を共有できる場として継続して参ります。



## 小越分区長を想う

大井分区 西本 貴子

小越さんは、私が保護司になった時に分区長でした。(敢えてここでは分区長と書かせていただきます)分区長の印象は強烈で、大井分区は小越分区長を中心に繋がりも強く、協力体制がしっかりされているという印象でした。

新人で非常に不安でありましたが、小越分区長の元気で張りのある声を聴くと、そんな不安は一瞬でなくなり、先輩方にも恵まれ、保護司として非常に居心地の良いスタートを切ることができました。本区の広報部長の仕事をさせていただきました。多くの失敗もありましたが、それを温かく見守っていただいたことを心から感謝しています。

お酒が大好きな私に新年会や総会、忘年会などの親睦会では数本の日本酒の徳利を持ってきて「さあ飲め!西本 お疲れ様。」といつも労ってくれました。小越分区長から薦められるお酒は飛び切り美味しく、本当に嬉しかった事を思い出します。

数年前の忘年会の時「ちょっと胃の調子が悪いんだよ。」と優れない顔色をしていましたので「病院に行ってください。」と強く勧めました。検査で病気が判明し、手術、治療

に入りましたが、体力が落ちていく姿を見て、頑張してほしいと強く願ったものです。大井分区の全員がそう願っていました。お酒が飲めるまで回復され、安堵した時もありました。瑞宝双光章を受章されたときは、大井分区一同歓喜に沸きました。盛大なお祝いをしたいと言う私たちの申し入れに対して、ささやかで良いからと言って、祝賀会を拒み、その意を汲んでいつもの親睦会でお祝いすることにしました。奥様もご参加いただき、一人ひとり丁寧に感謝を伝えている分区長の姿は、保護司としての歴史と威厳を感じ心を打たれました。その後、入院を繰り返し、今年の夏にお亡くなりになりましたが、新型コロナウイルス感染防止のため、葬儀に参列ができないことになってしまいました。お顔を見て感謝を伝えたいという思いから、ご自宅の大経寺に伺いました。穏やかな、凛々しいお顔に向かって、ただただ感謝を伝えました。

小越分区長、私たちは、これからも小越分区長の教えを胸に保護司の仕事に誇りを持って対象者に向き合い、明るい社会を目指して参ります。ありがとうございました。



瑞宝双光章受章のお祝い会でのご挨拶



大井分区研修会で退院のお祝い

## 退任のあいさつ



### うれしかった保護観察

品川分区 保科 うた子

保護司をさせて頂き、良い体験をさせて頂きました。私が朝早く家の前の道を掃除していたら「お早うございます。」と私の顔を笑顔で見ている人が居ました。私はアツと思ひ「お早うございます。朝早いのね。」と挨拶しながら、よく見たら、2人の保護観察対象者

のうちの1人、Aさんで、明るくニコニコしていました。すぐに「お早うございます。今から会社？」と言ったら「朝早いんです。行ってきます。」と足早に駅の方へ行ってしまいました。その後は会っていませんが、元気で会社に勤めているのだと、うれしく思いました。この一度の出会いでしたが、「これからも元気で頑張ってるね。」と心で思いました。



### 退任して思う事

大崎分区 臼井 武子

令和2年8月31日、12年間の保護司活動を任期満了にて退任致しました。

保護司にというお話を頂きました時、一介の主婦である私が、果たして人様の人生に関わる事が出来るのか不安でしたが、家族、友人の応援もあり、何とか研修等を受け、先輩方の助言

を頂き、私なりに一年一年頑張ってきました。常に心掛けていた事は立派な事を話すのではなく、近所のおばさんの所で気軽に話せる様に対象者に寄り添ってきました。今でも対象者の方々の顔が浮かんで来ます。皆さん二度と私の所に来る事なく、お元気で幸せに過している事を念じています。私自身も皆様との関わりの中で、色々な事を学ばせて頂きました。



### 退任にあたって

荏原東分区 中川 治子

2000年12月に保護司の拝命を受け20年間活動して参りました。保護観察対象者は中学生から70代の高齢者と幅広く、事件内容も様々で重荷に感じ悩むことがありました。それでも、主任官や先輩からご指導をいただきながら前に進むことが出来ました。その間、20名の観察

対象者との出会いがありましたが半数が少年でした。解除になったと思ったら再犯で再び私の元へ来た少年や、主任官面接当夜の再犯もあり残念で悔しくて、主任官への報告が辛かったのを思い出します。多くのことを学ばせていただき退任を迎えました。感謝申し上げます。最後に品川区保護司会の皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

## 新任のあいさつ



大井分区  
蒲田 信行

罪を犯すということは、先々の自らの人生の活動範囲を狭めてしまうことに繋がってしまいます。再び人生の幅を狭めるような過ちを犯さないよう見守り、手助けをしていければと考えています。



荏原東分区  
海 沼 実

警察署ボランティアでのご縁から新任致しました。本業は音楽家で、地元では少林寺拳法の道場も開いております。地域への恩返しに精進致しますので宜しくお願い申し上げます。

## 事業報告

品川区保護司会 総務部長 鈴木美千代

## 総務部 事業報告

月 日	事業項目	場 所	参加人数
1月7日	品川区新年賀詞交換会	きゅりあんイベントホール	保護司多数
1月14日	総務会計部会	サポートセンター	会長他7名
1月16日	広報部会	区議会棟5階第四委員会室	15名
1月22日	品川区保護司会新年懇親会	謝朋殿	保護司49名・来賓36名
1月24日	品川区民生協議会表彰受賞者祝賀会	目黒雅叙園	副会長3名
1月28日	いじめ根絶協議会	教育会館	会長
1月31日	社明70回記念行事実行委員会	サポートセンター	会長他12名
2月3日	品川区生活安全協議会・青少年問題協議会	区防災センター・災害対策本部室	会長
	研修部会	区251会議室	9名・主任官
2月7日	東保連第1委員会	保護観察所共用室	会長
2月12日	常務役員会・理事会	荏原第五区民集会所第3集会室	常務13名・理事21名
2月13日	保護司・更女・BBS・連携強化研修	保護観察所集団処遇室	神原保護司
2月20日	第Ⅲ期定期例研修「就労支援と社会資源の活用」	区役所251～253会議室	61名 主任官
2月28日	第3回地域処遇会議	サポートセンター	会長・桐友会森氏・保護司6名
4月7日	会計監査	サポートセンター	監事2名・会長他4名
	正副会長・部長会（総会中止決定）	サポートセンター	会長他9名
4月9日	役員会（理事各位に総会議案書原本送付作業）	サポートセンター	総務・会計・地活部長・サボセン事務局石坂
4月17日	役員会（理事会書面決議済で総会中止を全員へFAX連絡）	サポートセンター	会長他3名
5月11日	役員会（総会議案書を書面決議のため、全員に送付する作業）	サポートセンター	会長他5名
5月19日	役員会（書面決議案書集計・全員に結果連絡）	サポートセンター	会長他5名
5月26日	定期総会（中止）	書面決議：賛成69名 無回答20名 在籍89名	
5月28日	東京保護司代表者協議会・東保連理事会	資料送付のみ	
6月1日	第70回社明品川区推進委員会	社明中止のため会議は中止	書面議決書類送付のみ
6月11日	理事会	区役所251会議室	24名、サボセン事務局石坂
6月23日	広報部会	サポートセンター	会長・本多副会長・部長他3名
6月25日	第Ⅰ期定期例研修「生活環境の調整について」	テキスト自習	各保護司
6月30日	社会福祉協議会理事会・評議委員会	社会福祉協議会	会長
7月6日	東京保護司代表者会議・東保連理事会	保護観察所	会長
7月10日	会計事務担当者運営連絡協議会	保護観察所	林会計部長
	地域活動部会（社明薬物パンフ送付作業）	サポートセンター	地活部長他7名
7月17日	第70回社明青少年善行表彰審査会	区役所災害対策本部室	会長他12名・区職員6名
	常務役員会	サポートセンター	会長他14名・サボセン事務局石坂・井上
8月25日	広報部会	サポートセンター	本多副会長・部長他3名
8月28日	社会福祉協議会理事会	社会福祉協議会	会長
9月9日	保護司等中央研修会	サポートセンター	会長他12名・吉田桐友会長
9月14日	理事会	区役所354会議室	25名・サボセン事務局石坂
10月5日	保護観察所所長来訪	サポートセンター	会長他7名・松澤更女会長
10月8日	第Ⅱ期定期例研修「面接について」	テキスト自習	各保護司
10月21日	「サボセン通信」編集委員会	サポートセンター	会長他7名
10月28日	広報部会	区議会棟5階第三委員会室	本多副会長・部長他5名
10月30日	第3ブロック保護司組織運営連絡協議会	サポートセンター（リモート）	会長他14名
11月17日	広報部会	区議会棟5階第三委員会室	会長・部長他9名
11月18日	顕彰式典（中止）	表彰状等を保護司会に送付のみ	該当保護司
11月24日	企画調整保護司会議（「サボセン通信」編集）	サポートセンター	会長他14名
12月7日	広報部会	区議会棟5階第三委員会室	本多副会長・部長他8名
12月10日	理事会・忘年会	蔵	理事会27名・忘年会18名
12月17日	東京保護司代表者協議会・東保連理事会	東京保護観察所	木崎会長

**令和2年度 叙勲・顕彰**

(敬称略・順不同)

叙勲：瑞宝双光章(春) 杉森 義治  
 瑞宝双光章(秋) 吉澤 房枝  
 藍綬褒章(秋) 青木 義雄

法務大臣表彰：

本多 健信・川邊 順子・和田 好史  
 須山多喜子・鈴木美千代

全国保護司連盟理事長表彰：

門倉 元二・松本 初江・芳根 孝明  
 林 洋子・松尾 和英

関東地方更生保護委員会委員長表彰：

井上 耕一・塚本 英久・根本 貴司

関東地方保護司連盟会長表彰：

伊藤 雅志・生方 中・大島 啓介  
 小川 雅之・但馬 一誠・立花 光紀  
 中山 道治・久川 秀則・吉田 茂子

東京保護観察所長表彰：

大塚 好雄・松尾 史生

東京都保護司会連合会会長表彰：

石坂 啓・江口 千枝・鈴木 孝義  
 高岡千賀子・古谷 洋子・若林 広毅

東京保護観察所長感謝状(家族功劳)：

山口ゆり子

受賞、誠にありがとうございます。

謹んでご報告申し上げます。

**広報部会**

担当副会長：本多 健信(大崎分区)

広報部長：但馬 一誠(品川分区)

広報副部長：上村きみ子(荏原東分区)

顧問：松井 一雄(大井分区)

品川分区：篠原 典男 宮内 好昭  
 渡邊久美子

大崎分区：白井 武子 花田ちえ子  
 古谷 洋子

大井分区：早野紀佐子 門倉 元二  
 根本 貴司 小川 雅之

荏原東分区：中川 治子 沖山 弘隆  
 中村 國雄 原 健治

荏原西分区：吉田 茂子 久川 秀則  
 高岡千賀子

**退任**

(敬称略・順不同)

ご逝去により 7月9日付 小越 是正  
 自己都合により 1月31日付 白戸 秀憲  
 年齢上限により 5月24日付 保科うた子  
 8月31日付 白井 武子  
 12月21日付 中川 治子

**新任**

(敬称略・順不同)

2月1日付 蒲田 信行  
 9月1日付 海沼 実  
 12月22日付 三津山真弓 堀江 荘平  
 森泉 美穂 井上 明裕

**現状**

会員数 92名  
 定数 132名  
 充足率 69.7%

**編集後記**

広報部担当副会長 本多 健信

昨年5月29日、航空自衛隊のブルーインパルス6機が新型コロナウイルスに対応する医療従事者などに感謝と敬意を示すための飛行を東京都心上空で実施いたしました。白いスモークを引く6機の編隊が初夏の青空を彩りました。スモークを引いていない1機は、安全管理の任務を担う全般統制機でした。防衛省によると、ブルーインパルスが都心上空を飛んだのは、前回の東京五輪、さよなら国立競技場に次いで3回目との事です。なお、2013年、東京国体開会式会場の調布市「味の素スタジアム」上空での飛行は有りました。今回の飛行がひととき感動したのは、コロナ禍という苦しみ悲しみと隣り合わせだったからなのでしょう。悲喜こもごもの人生の中で、大空を見上げ胸躍らせる瞬間、そんなひと時が必要です。同じ思いで、品川区保護司会も活動したいと思います。